

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292300017		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホームあんしん勝浦上植野		
所在地	千葉県勝浦市上植野925-1		
自己評価作成日	令和2年2月20日	市町村評価書受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和2年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・田園風景に囲まれた環境の中、住み慣れた地域にて共に支え合い、四季を感じる思い出作りに努めております。</li> <li>・目の前に広がる自社農地にて、季節の風を肌で感じながら米作りに参加し、耕作する楽しさ、食する喜びを感じ、安心出来る米を提供しており、食の安全を図っております。</li> <li>・季節に合った地域行事には積極的に参加し、地域の方と触れ合う事で、その人らしさを大切にして、穏やかに過ごせるよう支援しています。</li> <li>・毎月の行事予定を明確にし、個別に発信して、家族様との連携を図っています。</li> </ul>
---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入し、自治会の年間行事である祭礼、小学校で行う運動会、雛祭りに参加し、クリーンデーでは工具を持って地域の方々とゴミ拾いを行っている。ホームの行事の夏祭りには、ボランティアの方々が数人来て踊りなど色々な事をやってくれる。今年度は落語家を呼んで、家族の方々と地域の方々と、地区長等が参加して楽しんだ。・ホームの前の自社の田んぼで田植えを行い、苗に触れたり利用者の1人が昔やっていたことを思い出して農耕機に乗って田植えを行い、秋には稲刈りも行った。・勝浦の文化交流センターで行う無料のイベントへ皆で行って楽しんだり、初詣で地元の神社へ行ったり、小湊誕生寺の七五三の稚児行列に行ったりして利用者が昔を思い出するような支援を行っている。</li> </ul>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重し、安全で安心できる、楽しく美しい生活の場を、地域と連携の中で、和の心を持って確立する。」という理念を朝礼(申し送り)時、職員一同再確認し、意識して業務に当たっている。	理念を目に付くいろいろな場所に掲示し朝礼時に復唱している。理念を基に毎月朔日に行う職員会議で今月の目標を決め実施している。今月は「コロナ」関係で「手洗いうがいの強化」を目標に設定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	イベント事には積極的に参加し地域の方々とは触れ合っている。 散歩の際、地域の方々とは会話をし、コミュニケーションを計り交流している。	自治会の年間行事である祭礼、小学校で行う運動会、雛祭りに参加し、クリーンデーでは工具を持ってバス停までゴミ拾いを地域の方々で行っている。ホームの行事である夏祭りは、隣のGHあんしん勝浦と一緒にい家族の方々、地域の方々、地区長、ボランティアの方々が来てくれて今年は落語家を呼んで楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、地域の方々に参加して頂き、活動内容をお知らせする。 利用者様も会議に参加し、交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実施、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・区長代理を始め地域の方、市役所高齢者支援課の職員にて意見交換を行っている。	2ヶ月毎に開催される運営推進会議は、市、地域包括、区長代理、家族等が参加して行われる。会議は利用者に関する状況報告や事故報告等を行い、報告に対する質問が多く要望等は殆ど出ない。市の監査委員をしている地区長代理の方が4月から地区長になる予定であり、時々バナナ等を持って来てくれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所高齢者支援課担当者に相談に行き、意見を伺っている。	管理者は介護保険の更新や事故報告等で市役所へ足を運ぶと運営推進会議に出席する高齢者支援課の担当者がカウンターに来て対応してくれ、情報交換や相談にも乗ってくれる。福祉課では空室の相談をし、今週中に介護度が決まるので空けておいて下さいと電話があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する会議(3ヶ月に1回)を行い、声がけ・見守りの強化をし、身体拘束の無い支援を実践している。 玄関は防犯と安全上の理由により夜間のみ施錠している。	会議では議題を決めディスカッションをしている。県からDVDを借りてチェック項目をGHIに置き換えて話し合った。例えば、利用者の要求を後回しにするのも拘束に当たるなどDVDを見ての会議は環境が変わって充実した。その結果、職員間で業務中でもスピーチロックなどについて注意し合うようになった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、施設内勉強会を開き職員全員研修内容を共有する。また、資料等を活用し、職員に教育するとともに虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に出席をし、成年後見制度を十分理解し、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、近況を報告し、意見交換要望を聞き、定期的に会議を設けている。 活動報告・行事予定を明確にし、毎月手紙にて発信している。	面会時は「あんしんだより」の行事予定を見て電話で確認してから来訪するようになった。また、写真を見て満足しているためか運営推進会議等でも要望は全くない。利用者アンケートで、「介護施設特有のにおいが少し気になる」との意見が有り、職員は臭いにマヒしているため、今後は家族等が来訪した際に直接聞いてみる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を定期的実施し、職員の意見や提案を述べ意向や希望に沿うように努めている。	全体会議では、トイレから居室迄テープを貼って誘導するとか、好きな花を居室のドアに貼って迷ったときに「コスモス」は何処ですかと言って誘導するなどの意見が出る。個別面談では、介護に関して上手いかわからないが如何したら良いか等の相談事が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望を受け入れるようにし、働きやすい状況になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部の研修に積極的に参加している。 研修資料をまとめ職員同士共有し、職務に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列法人の運営する施設訪問を行っている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心を感じられるように寄り添い、コミュニケーションを計り、希望に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いで不安、要望を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで優先順位は何かを考え、状況に応じ提案するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、利用者立場に立った対応を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を説明し、会話の流れの中で、本人と家族の話がスムーズにいくようサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の馴染みの方、近隣に住む親戚の方、友人の方、面会に来られるので職員が良い関係を築けるよう努めている。	ホームの前の自社の田んぼで田植えを行い、苗に触れたり利用者の1人が昔やっていたことを思い出して農耕機に乗って田植えを行い、秋には稲刈りも行った。初詣で地元の神社へ行ったり、小湊誕生寺の七五三詣りの稚児行列を見に行ったりして利用者が昔を思い出しやすいような支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を見ながら配慮し、レクリエーションを通じて関わり合いを持てるように努めている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、施設等に入所された方は、訪問を行っている。家族の方に手紙・電話などで関係を保っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から意向を聞く等し、日々の会話の中から把握できるように努めている。	本来であれば入所前に思いや意向を理解した上でケアプランを作成する事が理想ではあるが、初期段階では、家族の意向は理解できても、本人のそれを汲むことは難しい。個人差はあるが入所後2~3カ月でようやく慣れて来た頃から少しずつホームでの生活に仕向けていくことによりようやく真の気持ちを引き出すことが出来るようになる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、他のサービス事業所の情報提供書を参考に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排尿、排便状況の把握、歌唱、描画、料理等を勤めて様子を見る等して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録や気付きを基に定期的な会議にて検討し、家族、本人の要望を取り入れ介護計画を作成している。	ケアプランは初期段階ではミーティングを重ね、まずは3カ月で修正。半年たったら見直しを行う。ケアマネージャは複数の事業所を担当している為、週1回の来訪で十分なモニタリングと管理者とミーティングを行う。日々のケアは職員が最も良く分かっている。日々のケアは職員が最も良く分かっている。この意見を聴くことも行う。これが一つのチームとなり、確定していくことになる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノートを職員間で情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて職員からの提案など取り入れ柔軟な対応が出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩にてゴミを拾い地域の美化に貢献出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、利用者の必要とする医療機関への受診にも対応している。	提携医院のドクターは神経内科の先生である為、認知症に関する様々なアドバイスや治療も行って頂ける。月に1回は職員が同行する通院支援を行っているが、日々のバイタルから異常があればすぐに相談できる体制にある。訪問歯科も月1回の対応をお願いしており、常時安心できる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や気づきを個別記録やノートに記入し、看護師の訪問時に相談し適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を密に取り、入退院時に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、緊急・終末期の方針及び、対応等十分に説明し話し合い確認書を頂いている。医療機関と連帯を図り、かかりつけ医師の指示を仰ぎ、出来る限りの支援が行えるよう取り組んでいる。	看取りケアについてはこれまでも事例が無く、緊急時は医療との十分な連携と、救急対応が基本となっている。その為にAEDを設置し、職員は全員心肺蘇生の技術を身に付けている。とはいえ、今後看取りケアのニーズは高まってくることも考えられることから、法人本部で行う研修会にはしっかりと参加しており、事業所内でも勉強会を開いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を受け、会議にて緊急時マニュアルを把握し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員指導の下、地域の方と共同し日中・夜間と想定を変え年2回避難訓練を行い、職員個々の防災意識を高めている。反復練習にて任務の再確認をしている。	昨年の台風15号、19号と2度にわたる大型台風の直撃で長時間にわたる停電を経験し、非常食や非常用備品等を準備はしていたものの、停電という想定をしていなかったことから大きな反省に繋がった。今後は、いざというときに備え自家発電装置がどうしても必要であるという結論から、現在申請中である。	

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が一人ひとりの情報を共有し、人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉使い、声掛けを徹底している。	職員個々への徹底については完了していると考えており、今後は職員同士で気が付いた時は注意し合える状態を目指している。プライバシーの確保と同時に身体拘束に関してもスピーチロック等も同様に日常ケアのなかで発生したものに關してはその場で潰し込みが出来る事が望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように働きかけ、時にはこちらから提案をしながら自己決定が出来るように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めていなく自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持ち込まれた衣類の中で、組み合わせなどに気配りを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握できるように努めている。時には気分を変えウッドデッキにて、ランチを楽しんでいる。また、その方の出来る範囲でお手伝いをお願いしている。	メニューは事業所内で決め、食材の調達から調理、配膳等利用者の皆さんには出来る範囲でお手伝いをお願いしている。時には施設内のウッドデッキで外食気分を味わったり、季節に応じたおやつ作りなどでお茶会を利用者と一緒に楽しんでいる。家族との外出帰りや、職員との通院帰りに外食に立ち寄ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューについては栄養士が管理しておりバランスの取れた食事を提供している。調理は職員が行い、利用者の個々に応じて形態を変えている。食事や水分の摂取量はケース記録に記入し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科医院の訪問診療を受けている。毎食後、口腔ケアを促し声掛け見守りし対応をしている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの日々の排泄パターンでトイレ誘導をしている。現在、トイレでの排泄が可能な方はオムツ、パッド等を使用していない。	健康を考慮して、日中は出来るだけ水分を多くとる様にしており、その日の状態に合わせてトイレ誘導を行っている。その分夜間は紙おむつを使用することになるが、2時間に1回パッドの交換を行い、十分な睡眠を取って頂ける様心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、食物繊維の摂取を心がけている。自然排便のない場合、医師及び看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間はある程度決まりがあるが、天候気温を配慮し、その時の利用者の状況で対応している。	週3回の入浴を勧めているが、寒い日は入浴拒否もあり、リズムが崩れる時もある。介助は見守り中心で行っており、希望に応じ背中を流したり、シャワー浴を行ったりする。基本的には同姓介助の為抵抗はないが、入浴拒否者に対しては声掛けや、順番を変える等して、出来るだけ入って頂ける様に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備し、室温調整を行い希望者に湯たんぽを貸出し、衣類・布団の天日干しにより安眠して頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を参考にしたり、薬剤師に相談や助言をもらっている。服薬管理ノートを作成し、職員全員共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、洗濯物畳み等をお願いしている。歌や体操、外出等で一人ひとりにあった気分転換を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に許可を頂き外出支援を行っている。利用者の希望にそって買い物に同行している。季節を感じられるよう、地域のイベントに参加し交流を計っている。	昨年度始めた勝浦文化交流センターでの発表会やお茶会への参加は継続しており、定番となってきた。又地元の小中学校での音楽発表会への参加などで、利用者には地域交流の幅を広げて頂ける様に努めている。今は感染症の拡大で外出は中止しているが、現在新しい場所への外出展開を考えている。	



自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自らお金の管理をし職員が買い物に同行し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある利用者には自ら手紙や電話のやりとりが出来るように支援している。 困難な方には、職員が利用者の意志を伝えるなどの対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中くつろいで過ごされているリビングに季節の花々を生け季節感を目で楽しんで頂いている。玄関、廊下等にイベント時の写真を飾り居心地の良い空間づくりに努めている。	リビングは、外出支援の充実化により外出時の写真が満載であり、家族の来訪時など、話題に事欠かないのではと思える。又、別の部屋からは利用者の皆さんのカラオケを楽しむ歌声が聞こえて来て、共同生活の楽しみを満喫されている様子が伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室対応にてプライベートが保たれている。多くの利用者が過ごすリビングにはゆったりとくつろげる様ソファを設置し、写真や手作りポスターを飾り、利用者同士会話が弾む様、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で、入居するまで使用していた品を持ち込んで頂いている。	ホームでは、自宅とのギャップを感じさせない工夫に取り組むことが重要で、馴染みのものは何でも持ち込みが可能であると言われてきているが、最近では少し変化があり、持ち込みアイテムが徐々に少なくなってきたように感じられる。ここではペットの持ち込みが可能となっているのが特徴的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮した家具やソファの配置をし、動線をスムーズに出来るだけ自立した生活を支援している。		